医療法人社団日高会
日高病院

病診連携通信

Information

No.61～ No.80

H23.1.31 ～H26.12.10

病診連携通信 No.61 ～ No.80

Information

No.	発行日	主な内容
No.61	平成23年01月31日	歯科口腔外科　口腔粘膜疾患・顎変形症外来 開始
No.62	平成23年05月14日	消化器・乳腺・呼吸器病センター開設/総合診療科
No.63	平成23年07月15日	日高学術研究センター開設/歯科口腔外科 電話・メール相談窓口
No.64	平成23年10月11日	生体間による腎臓移植手術
No.66	平成23年12月01日	臨床研修医決定/総合診療科について
No.67	平成24年04月20日	病診連携室長就任/メタボ・糖尿病治療センター CGM導入
No.68	平成24年06月10日	脳神経外科・血栓溶解療法開始
No.69	平成24年07月07日	循環器内科 カテーテル検査室/全自動血液透析用監視装置導入
No.70	平成25年05月17日	日高病院 関原院長就任/生体腎移植
No.71	平成25年05月25日	泌尿器腹腔境手術センターのご紹介
No.72	平成25年08月26日	H24.8月～H25.7月 手術・診療実績ご報告/診療科医師より
No.73	平成25年09月25日	日本内科学会 教育病院認定/病理部病理診断科 中里部長就任
No.74	平成26年01月10日	化学療法センター リニューアルオープン・夜間化学療法開始
No.75	平成26年02月10日	救急部 木村部長入職/H25年度CPCの開催状況
No.76	平成26年04月05日	糖尿病サポートチーム特集
No.77	平成26年05月10日	施設アンケート/外来診察室 椅子新設/腫瘍センター活用術
No.78	平成26年08月10日	ガンマナイフセンター リニューアルオープン
No.79	平成26年10月15日	救急功労者厚生労働大臣賞 受賞/リレーフォーライフ2014ぐんま
No.80	平成26年12月10日	DMAT関東ブロック訓練/世界糖尿病デー

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する

No61
平成23年1月31日
日高病院病診連携室発行

病診連携通信

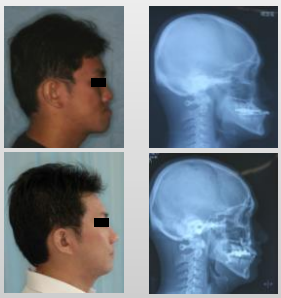
～　歯科口腔外科からのお知らせ　～
口腔粘膜疾患・顎変形症外来　（顎矯正手術）を開始いたします

平成23年4月から口腔粘膜疾患・顎変形症外来を日高病院歯科口腔外科に開設します。白板症、紅板症等がんを疑うような疾患、その他口腔扁平苔癬、難治性口内炎、舌痛症等診断や治療に苦慮されると思われる疾患について、また外科矯正治療についても矯正科の先生方と協力させて頂き診断、手術にあたります。

担当は東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科　顎顔面外科学分野教授　天笠光雄（あまがさ　てるお）先生です。これまでにも、先生方から多くの患者さまのご紹介を当院に頂き拝見してまいりましたが、より高度な次元から口腔外科疾患の治療にあたるべく外来を新設した次第です。先生はこの3月で大学を退職される予定で、それを機に“ふるさとの地域医療、特に口腔癌の早期発見のために努力をしたい”との強い想いを実現する場として、当病院を選んで頂きました。ご専門は口腔腫瘍、粘膜疾患（特に早期癌）、顎変形症、外傷、唇顎口蓋裂と口腔外科分野の多岐にわたります。臨床家歴は約40年におよび、その経験を少しでも生かし、郷土に恩返しをとの意向と伺っております。先生は、群馬県出身　県立前橋高校を卒業され東京医科歯科大学歯学部に入学。1991年に同大学第一口腔外科学講座（現顎顔面外科）の教授に就任、さまざまな学会の理事長、理事、評議委員をなさるほか、「NHKラジオ第1　つながるラジオ　健康相談」でもおなじみと思われます。

どうぞ、先生方の日常臨床のなかでお困りの口腔外科疾患がございましたならば、是非当院の外来をご利用ください。

歯科口腔外科主任医長　　渡部　隆夫



開咬を伴う下顎前突症　Case1
上下顎移動術。上顎は約4mmの前方移動。下顎は約10mmの後方移動で咬合改善した。

顔面非対称を伴う下顎前突症　Case2
上下顎移動術により咬合を改善した。それに伴って、顔面のゆがみも改善されている。

【歯科口腔外科外来診療一覧】

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	渡部 柚木	渡部	柚木	天笠教授 渡部 柚木	渡部 柚木	渡部 柚木
午後	渡部 柚木	渡部	柚木	渡部 柚木	渡部 柚木	

当院の協力医療機関（登録医療機関）になりませんか？

顎変形症の治療（手術）は、地域歯科医療機関の先生方との連携関係を欠かすことができません。当院の協力医療機関（登録医）となって、相互で患者様を支える体制を構築しませんか？
歯科口腔外科のご予約、協力医療機関のお申込みは下記までご連絡ください。

日高病院　病診連携室　　TEL：027-362-6201　FAX:027-362-0217

Q＆A

Q、費用はどれくらいかかるのですか？
A、保険が適応となり、3割負担で20～40万円です。

Q、手術をするには入院が必要ですか？
A、全身麻酔による手術で、7～10日程度の入院期間となります。

Q、美容整形とは違うのですか？
A、咬合を目的としているため、美容整形とは異なります。
手術により、顎の骨を移動するため顔貌は変化します。

Q、顔に傷跡は残りますか？
A、基本的に口腔内で行うので、顔面に傷はつきません。

【参考HP】
東京医科歯科大学　顎顔面外科学教室HP
http://www.tmd.ac.jp/dent/os1/index.html
顎変形症学会HP
http://gakuhenk.umin.jp/

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する

Ｎｏ62
平成23年5月14日
日高病院病診連携室発行

病診連携通信

消化器・乳腺・呼吸器病センターを開設致しました。

消化器・乳腺・呼吸器病センター

チーフアドバイザー　浅尾 高行

常勤	胃・十二指腸	大澤 清孝	日高病院外科　診療部長
	大腸・肛門	茂木 政彦	日高病院外科　化学療法センター長
	肝・胆・膵臓	東海林 久紀	日高病院外科　主任医長
	一般消化器	矢野間 透	日高病院外科
	乳腺	吉田 清香	日高病院外科
		八巻 さやか	日高病院外科
非常勤	食道	桑野 博行	群馬大学第一外科　教授
		宮崎 達也	群馬大学第一外科　学内講師
	胃・十二指腸	持木 彫人	群馬大学第一外科　講師
	肝・胆・膵臓	鈴木 秀樹	群馬大学第一外科　講師
	大腸・肛門	竹之下誠一	福島医科大学第二外科　教授
	大腸・肛門	浅尾 高行	群馬大学第一外科　准教授
	呼吸器	加藤 良二	東邦大学医療センター佐倉病院　外科学教授
		茂木 晃	群馬大学第一外科　学内講師
	乳腺	内田 信之	群馬大学第一外科　非常勤講師
		大竹 徹	福島医科大学第二外科　講師・特任教授
		安田 満彦	福島医科大学第二外科　学内講師
		藤井 孝明	群馬大学第一外科　助教

4月より、消化器・乳腺・呼吸器病センターを開設致しました。当センターの目的として、①最新かつ質の高い医療を提供すること　②初期・後期臨床研修医が専門性の高い外科研修、手術研修を行うこと③積極的に学術研修を行うことを柱に運営をしてまいります。センター化によって、各臓器別に高い専門性をもち消化器・乳腺・呼吸器疾患の診断から治療までを担います。診療体制は紹介外来、専門外来、検査（PET／CT・内視鏡等）、手術（内視鏡下手術）、化学療法を行い患者のQOLを考慮した幅広い診療を提供したいと考えております。

地域の先生方に最新の治療エビデンス、ガイドラインなどを、お示し出来るよう様々な情報を発信し、地域医療に微力ながら貢献することができるよう精進してまいります。

尚、別添診療ご案内を参考にしていただき、紹介などご相談の際は、下記の連携室にご連絡頂ければ幸いです。

診療部長　大澤 清孝

日高病院　病診連携室　TEL：027-362-6201　FAX:027-362-0217

消化器・乳腺・呼吸器病センターの医師一覧と診察予定表を同封いたしますので、ご参照のうえご紹介頂けますようお願い致します。また、今年度の紹介外来一覧も参考にして頂ければ幸いです。

～　総合診療科からお知らせ　～

症状から特定の診療科を決めかねている患者様はぜひご紹介ください。

近年の医学の進歩に伴い、医療は専門分化、高度化され各臓器疾患の専門医は増加し、これまで治療困難とされた疾患が克服できるようになりました。しかし一方で、「臓器を診て、人を診ない」との批判が起こり、総合診療に対する関心が高まりました。現に、平成16年から始まった臨床研修でもプライマリケアが重視されるようになっています。患者様を全人的にとらえ、院内の各専門診療科との連携により質の高い医療サービスを提供することをモットーに、当院でも4月より医師 5名（常勤医4名、シニアレジデント2名）の体制で総合診療科を開設し、いわゆる「医療の入り口」の部分を整備しました。もちろんすでに診断がついている患者様、希望診察科がある患者様、受診科の指示のある紹介状をお持ちの患者様は従来通り、原則として直接当該科へ受診していただきます。一方、症状から特定の診療科を決めるのが困難な場合には是非、総合診療科にご紹介頂ければ幸いです。患者様全体を診て可能な限り適切迅速な診断に努め、確定次第適切な専門各科に依頼します。

総合診療科主任医長　石山　延吉

【　総合診療科担当医師　】

診療部長・総合診療科統括責任者
大澤　清孝（群馬大学　昭和61年卒）
主任医長
石山　延吉（群馬大学　平成 4年卒）
医長
小平　明弘（帝京大学　平成 2年卒）
医員
岸　大二郎（昭和大学　平成13年卒）
医員
吉川　浩二（鳥取大学　平成21年卒）
医員
白川　尚史（徳島大学　平成21年卒）

各診療科のご紹介の際は、事前に電話連絡（予約）をお取りいただけますようお願い致します。患者様の待ち時間を軽減するために、先生方のご協力をお願い致します。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する

Ｎｏ63
平成23年7月15日
日高病院病診連携室発行

病診連携通信

7月1日より日高学術研究センターを開設致しました

医学の進歩は、日々目覚ましいものがあります。そこで、臨床面でのお互いの切磋琢磨は勿論のこと国内・国外での学会発表、対外的な学術講演、勉強会、各種患者会活動を積極的に行い医師やスタッフの専門性ならびに日常診療の意識の向上をはかり、質の高い医療を提供してまいります。 さらに、国が定める薬事法の下、患者に不利益をもたらす事がない様、倫理性・科学性・信頼性を確保した治験を実施し、質の高いエビデンスを公表することで地域医療のみならず、広く国際医療の発展に貢献したいと思います。

日高学術研究センター
センター長　下村　洋之助

活動・ミッション

臨床研究
最先端の臨床研究を通じて得られた質の高いエビデンスを専門誌や学会で公表します。治験による新薬誕生での社会貢献に加えて、目の前の患者のみならず、日本全国、世界、未来の患者に対する治療法の改善をリードします。

学術活動
対外的な学術講演を積極的に行います。また、院内勉強会を通じて医師やスタッフの専門性ならびに、日常診療の意識の向上を目指すとともに、患者向け説明会などを通じ、疾患治癒の促進に繋げます。

治験
国内未承認の待望の新薬に関する有効性と安全性を検証することで、医療の発展に貢献するのみならず、先端の医療を望まれる患者ニーズに応えます。日高会では、高度な専門性を有する豊富な医師とスタッフならびに充実した設備を活かし、積極的に治験を受け入れます。

日高学術研究センタースタッフ

顧問	小林　功	群馬大学名誉教授　糖尿病学会専門医　糖尿病学会指導医　日本内分泌代謝科専門医
センター長	下村　洋之助	群馬県立県民健康科学大学名誉教授　日本内科学会認定内科医　日本糖尿病学会専門医 日本肥満学会評議員　日本内科学会認定内科医　日本医師会認定産業医
研究部長	根岸　真由美	日本糖尿病学会研修指導医　日本糖尿病学会専門医　日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会認定内科医　日本医師会認定産業医
研究部長	中嶋　克行	University of California Davis(Department of Molecular Biosciences)客員教授 群馬大学大学院客員教授（保健学研究科）　金沢大学大学院客員教授（医学系研究科脂質研究講座）
室長	永野　伸郎	日本薬理学会学術評議員　薬学博士　農学博士

“地域先生専用”　歯科口腔外科　電話・メール相談窓口を開設致しました

歯科口腔外科では、地域医療機関の先生向けの電話・メール相談窓口を開設致しました。地域の先生方が日頃の診療に活かすことができる情報提供を心がけてまいります。また、相談は当院へ紹介目的でなくとも結構ですので、どうぞお気軽にご相談ください。

お問い合わせ

電話相談：027-362-6201

受付時間：月～金曜日　9時～17時
土曜日　9時～12時
メール相談：dental@hidaka-kai.com

お気軽にご相談ください
ご予約・登録医のお問い合わせもどうぞ

電話相談の流れ

お電話をして頂く。（TEL:027-362-6201）
↓
連携室の職員が、先生のお名前・ご連絡先をお聞き致します。
↓
当院の歯科口腔外科医師が、改めて折り返しお電話をさせて頂きます。
↓
相談内容をお話ください。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する

Ｎｏ64
平成23年10月11日
日高病院病診連携室発行

病診連携通信

“当院初症例”　生体間による腎臓移植手術を行いました

現在日本国内には、約30万人の患者様が慢性腎不全のため透析療法を受けられております。日本は透析療法において世界最高のレベルであり、当院でも質の高い医療を提供しております。ただし、残念ながら透析療法には限界があり時間的制約・食事制限・水分制限など患者様に負担をおかけすることが避けられません。

このたび当院では、国内で3,000件以上の腎移植の経験を有する東京女子医科大学腎センター外科と提携することで、現在最高峰といえる生体腎移植の治療内容を提供することが可能となりました。例えば生体腎移植には善意で腎臓提供をしてくださるドナーの存在が不可欠ですが、このドナー腎提供手術を腹腔鏡下手術で実施しております。これはカメラを用いた最小限の侵襲手術（写真1、）で、従来の手術創の半分以下の皮膚切開で済みます。画質は非常に良好です（写真2）。ドナーは術後1週間以内に退院することも十分可能です。このほか腎移植に必須の免疫抑制剤等も、最新の治療内容をお届けできます。本院は、保存期腎不全の治療から透析導入、シャント関連手術、腎移植、そして他科の先生方とともに、ほとんど全ての腎不全治療を院内で完結することが可能になりました。まだ患者様の手術選定には限界がございますが、多くの皆様のお役にたてられますよう一層努力を続けていきたいと考えております。

腎臓外科主任医長　安藤　哲郎

写真1

写真2

レシピエント術中

生体腎移植の患者様を迎えるにあたって

8月24日手術当日の朝、ドナーであるお母様の病室を訪問すると、「本当にこの日が来るのをずっと待っていました。親としてやっと肩の荷をおろすことができます。色々なことを我慢させてきましたから。」と涙ながらにお話された。日高病院で実施する生体腎移植に、私自身が立ち会うことができて本当によかったと思えた瞬間だった。レシピエントは、30歳代（女性）透析歴10年、ドナーはそのレシピエントの母親である。

移植に至るまでの看護部門の具体的な準備は、1年前にさかのぼる。まずは国内有数の移植手術件数を誇る東京女子医大病院に研修にいくことから始まった。病棟では移植チームを編成し、去年の夏から秋にかけて手術室の看護師とともに、数人のグループにわけて東京女子医大病院で研修をさせていただいた。全ての研修終了後には、まずチームメンバーそれぞれが自分なりのまとめを行い、その後は、医師やコメディカルと共に、毎週1回の移植カンファレンスを行った。マニュアルや患者用パンフレット作成・知識の共有をすすめていき、8月24日当日をむかえたわけである。現在、1例目を経験し、実践したことを評価・修正していく段階に入っている。細かい部分ではまだ不足の点もあった。次の事例では病棟全体が更にレベルアップをしていくことを目指したい。二階南病棟（腎臓外科・腎臓内科）

2階南病棟師長　真下 孝江

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する

Ｎｏ65
平成23年12月1日
日高病院病診連携室発行

病診連携通信

来春の臨床研修医決定　当院は定員を満たしました

医大生臨床研修

14病院で定員割れ

内定88人 3病院、確保できず

来春医師になる医大生が臨床研修先を決める「マッチング」の結果、県内16病院の内定者は88人で、前年よりも4人減少したことが27日分かった。募集定員（121人）に対する充足率は72・7％で、全国平均を2・6ポイント下回った。14病院が定員割れし、3病院は1人も確保できなかった。県は、病院間の連携を促し、魅力的な研修プログラム作りで医師確保を進める。

関連記事 4面

病院別の内定者数は、群馬大医学部附属32人、前橋赤十字12人、伊勢崎市民10人、高崎総合医療センター7人などで、定員を満たしたのは藤岡総合（5人）と日高（4人）のみ。桐生厚生総合、館林厚生、県立心臓血管センターはゼロだった。

内定者は2005年の102人をピークに4年連続で減少し、09年には80人を割った。昨年は、5年ぶりに増加に転じ92人が内定したが、今年再び減少した。

厚生労働省が7月に公表した臨床研修病院の研修修了者へのアンケート結果によると、研修する病院を選んだ理由のトップは「多くの症例を経験できる」。「プログラムが充実している」「プライマリケア（総合的な医療）の能力を習得できる」などが続き、研修内容が病院選択の大きな要因となっている。

本県で臨床研修を始める学生が増えれば医師増につながることから、県医師確保対策室は「16病院の連携で、研修プログラムを充実させ魅力を高めたい」と話している。

10月28日付　上毛新聞

既に、ご存知のように医師臨床研修マッチングとは、医学生と臨床研修病院のプログラムを、お互いの希望を踏まえて、一定のアルゴリズムに従って医師臨床研修マッチング協議会がコンピューターにより組み合わせをする制度です。平成23年度のは内定者（マッチング者数）は全体で7,951名（前年7,998名）で都市部6都道府県以外の内定者はの割合は、53.5%となり制度導入以降、最大となりました。反面、大学病院の内定者割合は47.1%となり、前回より減少しています。

当院は、平成20年から臨床研修医の受け入れを開始（定員4名）し、今年度においても、フルマッチという結果が出ました。

今後も、群馬県内に多くの研修医に来て頂けるよう、微力ながら尽力してまいります。

院長　安藤　義孝

【研修医マッチングの結果（関東および周辺）】

厚労省資料

都道府県	募集定員	マッチ者数	前年増減
福島県	146	61	△17
茨城県	184	105	△9
栃木県	163	110	△5
群馬県	**121**	**88**	**△4**
埼玉県	377	203	△20
千葉県	383	300	8
東京都	1502	1369	△40
神奈川県	661	577	△2
新潟県	175	81	△7

当院の総合診療科についてお知らせ

近年の医学の進歩に伴い、医療は専門分化、高度化され各臓器疾患の専門医は増加し、これまで治療困難とされた疾患が克服できるようになりました。しかし一方で、「臓器を診て、人を診ない」との批判が起こり、総合診療に対する関心が高まりました。現に、平成16年から始まった臨床研修でもプライマリケアが重視されるようになっています。患者様を全人的にとらえ、院内の各専門診療科との連携により質の高い医療サービスを提供することをモットーに、当院でも4月より医師 6名（常勤医4名、シニアレジデント2名）の体制で総合診療科を開設し、いわゆる「医療の入り口」の部分を整備しました。もちろんすでに診断がついている患者様、希望診察科がある患者様、受診科の指示のある紹介状をお持ちの患者様は従来通り、原則として直接当該科へ受診していただきます。一方、症状から特定の診療科を決めるのが困難な場合には是非、総合診療科にご紹介頂ければ幸いです。患者様全体を診て可能な限り適切迅速な診断に努め、確定次第適切な専門各科に依頼します。

総合診療科主任医長　石山　延吉

総合診療科の役割

①内科系・外科系の救急疾患に対するプライマリケアを行います。

②必要に応じて、適切な専門診療科に引き継ぎ入院治療につなげていきます。

③複数の診療科にまたがる病態では、各診療科のｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの役割を果たします。

各診療科のご紹介の際は、事前に電話連絡（予約）をお取りいただけますようお願い致します。患者様の待ち時間を軽減するために、先生方のご協力をお願い致します。

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する

病診連携通信

Ｎｏ67
平成24年4月20日
日高病院病診連携室発行

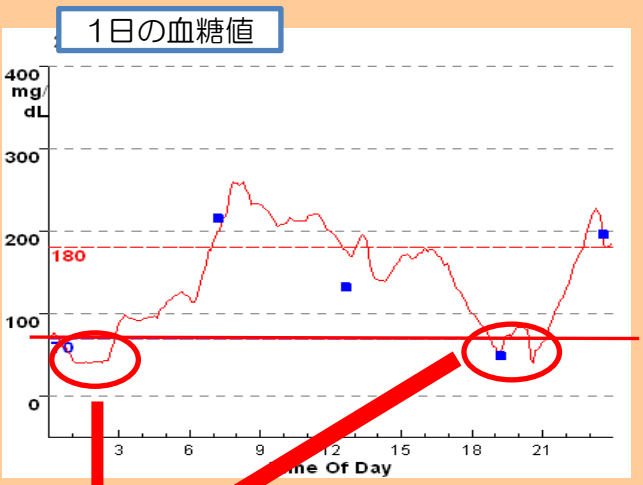
病診連携室長に石山延吉医師が就任いたしました

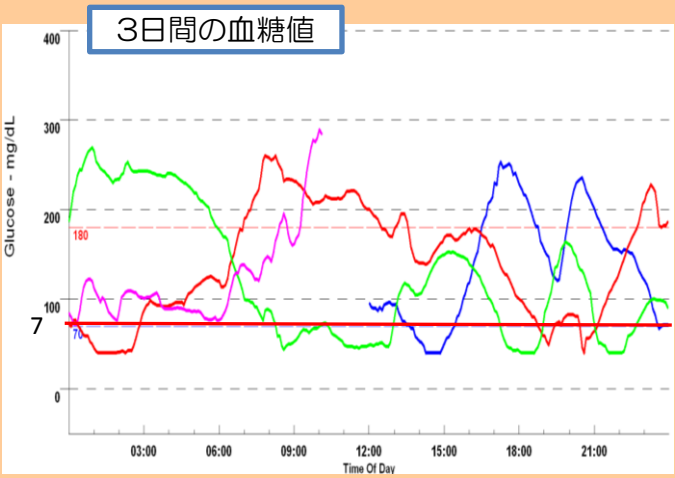
前任者の大澤清孝医師の後任として、平成24年4月1日付けで病診連携室長を拝名致しました石山でございます。地域の先生方、登録医の先生方には平素より地域連携にご理解とご協力を頂き感謝申し上げる次第です。当院では、既存の診療科に加えて、総合診療科を開設しておりますので、症状から特定の診療科を決めることが困難な際はご相談ください。今後は、急性期・亜急性期・慢性期・在宅という流れを切れ目なく構築できるよう、地域の先生方のご意見を伺える機会を設けたいと思います。これまでの研修会やCPC、地域連携パスについては、さらに質を高めることができるような企画運営をさせて頂きます。先生方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

総合診療科部長
病診連携室長
石山延吉　群馬大学（H4卒）

ﾒﾀﾎﾞ・糖尿病治療ｾﾝﾀｰからのお知らせ ～CGM（血糖持続測定）を導入しました～

当院では、新しく血糖を連続的に自動測定する測定機器CGM（Continuous Glucose Monitoring）を導入致しました。この測定機器は、皮下に留置した電極に組織間質液中のグルコース値を5分ごとに測定し、最大3日間連続して測定することが可能です。これにより、複数日にわたるグルコース値の日内変動を知ることができます。
SMBGやHbA1cだけでは測定できないグルコース変動をより正確に評価することが可能となり、個々の患者様の状態に即したより良い治療計画が立案でき、最良の血糖コントロールが期待きます。





CGMを実施したことで、低血糖（特に深夜）を発見することができました

皮下留置センサー

「サマリ」、「グルコースdata」、「1日の血糖」、「3日間の血糖値」の4種類にわたるレポートを3日以内に解析し、郵送で各先生方のお手元にお届け致します。

【適応者】

① 血糖ｺﾝﾄﾛｰﾙが困難な1型糖尿病の患者

② 低血糖発作を繰り返す等、血糖ｺﾝﾄﾛｰﾙが不安定な2型糖尿病患者

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する

Ｎｏ68
平成24年6月10日
日高病院病診連携室発行

病診連携通信

脳神経外科からのお知らせ

独協医科大学　平成15年卒
脳神経外科医長　　木幡一磨
脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医

地域の先生方、登録医の先生方におかれましては、平素より当院との地域連携にご理解、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

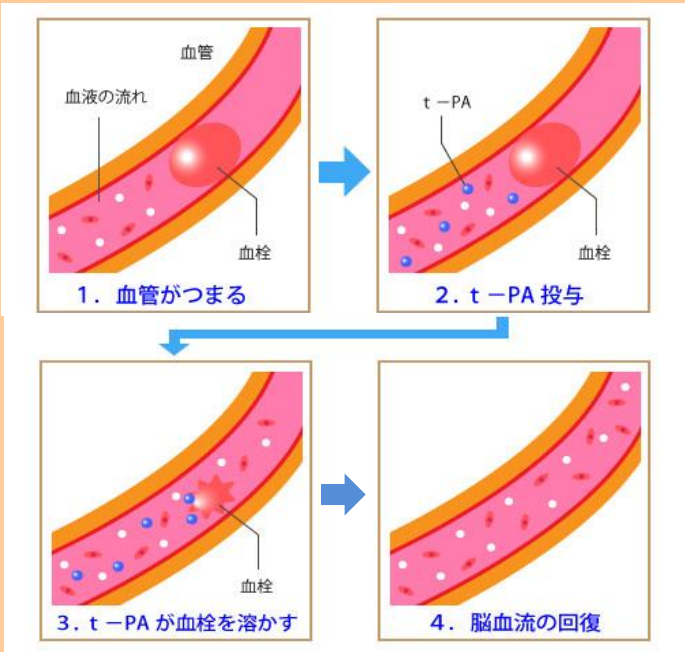
本年4月より、日高病院脳神経外科医長として赴任してまいり木幡一磨 （こわた　かずま） でございます。 脳卒中を中心とした急性期脳外科疾患を担当しております。

後述する血栓溶解療法は時間が勝負の治療法です。脳梗塞が疑わしいが、判断がつきにくいという突然発症の患者様がいらしたら、ぜひご相談ください。 総合診療科と脳神経外科が緊密な連携をとりながら、診断や治療適応について検討をさせて頂きます。

地域の先生方からの信頼を得ることができるよう、丁寧かつ親切な診療を心がけてまいります。引き続き当院との病診連携をお願いするとともに、一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い致します。

6月4日（月）から血栓溶解療法（tPA治療）を開始致しました。

この度、脳神経疾患領域で当院で施行できる治療として、血栓溶解療法（tPA療法）が新たに加わりましたことをご報告させて頂きます。 ご存知の通り、「脳卒中」は「脳血管障害」と言いかえることができ脳梗塞と脳出血を併せた疾患群の名称です。 日常の診療でも遭遇する確率が高く、日本人の死因の第3位に挙げられるこの疾患は、ますます高齢化が進む我が国において、今後も治療や予防に重点がおかれる分野のひとつでもあります。



この様な、背景のもと、平成17年よりtPA療法が保険認可となり、超急性期と呼ばれる発症から間もない時間（3時間以内）に限って「脳梗塞」に対して使用可能となりました。閉塞血管が薬により再開通し血液を再環流させ脳梗塞に陥る前に回復させることができます。よって、この治療で劇的に、症状が改善する可能性があります。

当院もこの治療法を6月より開始し、患者様の受け入れが可能となりました。重篤な合併症のリスクもあり、患者様の適応については、日本脳卒中学会の指針を遵守し、積極的に治療を実施してまいります。

【発症からの投薬時間】
◎3時間

【tPA治療についての受付時間】
◎月・水・木・金曜日　8:30～15:00

【紹介窓口】
◎病診連携室　TEL:027-362-6201

臨　床　病　理　検　討　会　の　お　知　ら　せ

日　時 ：平成24年6月26日（火） 18時00分～
場　所 ：日高病院　6階大会議室
症　例 ：70歳代 男性　肺炎　80歳代 女性　急性腸管虚血の疑い
臨床医：日高病院　成清医師（呼吸器内科）　石山医師（総合診療科）
病理医：群馬大学病態病理学 教授　中里　洋一先生　群馬大学病態病理学 助教　田中　優子先生

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する

No69
平成24年7月7日
日高病院病診連携室発行

病診連携通信

循環器内科からのお知らせ　～　カテーテル検査室が2室体制になります　～

平成24年6月1日付けで、循環器内科部長として就任しました古賀敬史でございます。カテーテルスタッフを充実させ、さらに7月中旬にはカテーテル検査室が2室体制となり、24時間救急受け入れ体制を構築しております。

外来、救急全ての循環器疾患（急性冠動脈症候群、心不全大血管疾患、不整脈）に対応致します。我々は、「全身の血管病」という観点から、病院各部門を横断する包括的診療を行っております。心臓血管外科、脳神経外科、リハビリテーション科等の医師と連携、協力しながら適切な診療方針を選択し、紹介元医療機関の先生方にお返し致します。
今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

コガ　タカフミ
循環器内科部長　古賀　敬史
医学博士
日本心血管インターベンション治療学会専門医
日本内科学会認定医
頸動脈stent実施医
【専門領域】
心血管カテーテル（カテーテル治療歴2,500件以上）
高血圧・不整脈

循環器内科 外来予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	心血管カテ	病棟	心血管カテ	クリニック外来	クリニック外来	病院紹介外来
午後	病棟	病院紹介外来	病院紹介外来		心血管カテ	

救急患者様のご紹介は、上記に関わらず診察を致しますので、病診連携室までご連絡頂ければ幸いです。
当面は、日高病院、平成日高クリニックどちらへのご紹介でも結構でございます。
患者様のご都合や緊急性に応じて診察をさせて頂きます。

日高病院　病診連携室：027－362－6201

群馬初　全自動血液透析用監視装置を導入致しました

平成日高クリニックの透析室に群馬県初の全自動血液透析用監視装置が導入されました。本システムは逆ろ過透析液によるプライミング・返血・急速補液・手動送液と脱血の各サポート機能を標準搭載し、自動化による業務効率化を推進したものでプライミング・返血時等のコスト低減に寄与します。また超純粋透析液を用いているためON-line-HDFも可能となり血液浄化療法の幅が拡がりました。 患者様のメリットといたしましては、
① 様々な菌が身体に混入する可能性が非常に低くなる
② 老廃物や代謝産物の除去量が多くなる
③ 返血の待ち時間が短縮される
今後も患者様の身体に負担が少ない、また安全な透析療法を提供していきたいと思います。

臨　床　病　理　検　討　会　の　お　知　ら　せ

日　時：平成24年7月31日（火）　18時00分～
場　所：日高病院　6階大会議室
症　例：60歳代 女性　原発性胆汁性肝硬変　70歳代 男性　誤嚥性肺炎
臨床医：日高病院　筒井貴朗先生（腎臓内科）　星綾子先生（腎臓内科）
病理医：群馬大学病態病理学 信澤　純人先生　　宮永　朋実先生

医療法人社団日高会日高病院

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

Ｎｏ70
平成25年5月17日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

関原哲夫先生が日高病院 院長に就任致しました　～新病院長からご挨拶～

本年4月1日より、医療法人社団日高会日高病院の院長を拝名致しました。
当院は、「患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する」を基本理念として、群馬県がん診療連携推進病院地域医療支援病院、災害拠点病院、臨床研修指定病院の指定を受けると共に、24時間・365日の救急受入れ体制で高崎・安中医療圏の地域住民が安心して生活できる病院づくりを目指しております。

がん診療では、手術や化学療法にとどまらず、免疫療法や温熱療法にも取り組んでおります。さらに、ガンマナイフ治療、強度変調放射線治療など最新鋭の放射線治療機器を有効活用し、高度な専門医療を提供しております。
一方、「がん何でも相談」や「緩和ケアチーム」など相談支援体制も充実させ、全人的がん治療に取り組んでおります。

本年から泌尿器科腹腔鏡手術センターを開設し、泌尿器癌（前立腺癌、腎癌、腎盂尿管癌等）の腹腔鏡手術が可能となりました。さらに、病理専門医を迎え、質の高いがん診療を提供できる体制が整いました。救急体制に関しては、循環器内科医3人体制となり、万全の体制で救急患者受け入れが可能となりました。また、脳神経外科によるt-PAも実施されております。その他臨床面では、生体腎臓移植の実施、ハートセンター（循環器内科・心臓血管外科）で冠動脈ﾊﾞｲﾊﾟｽ術（OPCAB）を施行しております。
このように、充実した診療体制のもと臨床研修指定病院として多くの研修医を育成してまいりました。今後の医療を担う若い医師の教育施設としての使命感を持ち、より一層充実した教育プログラムを提供してまいります。

今年度は、9名の入職医師を迎え、総医師数が66名となりました。これらの医師やメディカルスタッフと一丸になって高度急性期医療を提供できるよう尽力する所存でございます。
今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

病院長　関原　哲夫

生体腎移植　において14 症例の手術を施行しました

一昨年8月から当院では生体腎移植手術を開始しました。
本年5月までに14組の移植手術を行っております。
これまでの14例すべての患者様（レシピエント）が透析を完全に離脱し、大きな合併症はなく元気に生活されております。
手術後の平均入院期間は4週間程度です。
これまでの14例すべての腎提供者様（ドナー）も、最小限の侵襲手術といわれる腹腔鏡下手術で行っており、全員元気に退院しております。

生体腎移植手術は保険適応で、腎不全で障害者認定がされている方であれば手術費用は免除されます。
また生体腎移植は、**5年間の移植腎生着率が90%、10年間で80%以上と言われております。**当院では、親族からの無償の提供であれば生体腎移植手術がスムースに予定することができます。（ドナー・レシピエントそれぞれの検査が必要となります）血液型の相違は現在はあまり問題でなくなってきており、移植分野の医療の進歩はめざましいものがあります。腎移植のご希望がある方は、腎移植外来(受付に確認)までお気軽にご相談ください。

人工透析・移植外科部長　安藤　哲郎

・同封の医師一覧、紹介外来診療一覧表をご覧頂きご紹介時の参考にしてください。
・次号は、本年4月に開設した泌尿器腹腔鏡手術センターの特集です。

医療法人社団日高会日高病院
◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

Ｎｏ71
平成25年5月25日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

泌尿器腹腔鏡手術センターのご紹介　センター長　羽鳥基明先生からのご挨拶

本年4月より、日高病院に入職し、泌尿器科部長および泌尿器腹腔鏡手術センター長を拝名致しました。腹腔鏡手術は低侵襲であることはもちろんのこと、医療経済を鑑みた場合も非常に効率よく、今後は主流となるものと確信しております。

【腹腔（体腔鏡）手術とは】

お腹に1～2cmの穴を数か所あけて、その穴にトロカーと呼ばれる筒を挿入します。このトロカーの1本から二酸化炭素を腹腔内に注入して、お腹を膨らませて、カメラ、鉗子、はさみ、電気メスなどを出し入れして、臓器摘出や臓器再建の手術を施行します。モニター上に映った映像は約6倍の拡大視野になっているので、肉眼では見えにくい細い血管やリンパ管や神経が見えて、丁寧な手術操作が施行できます。そのために、出血量は従来の開放（開腹）手術に比べて、極めて少ないことが多いです。

【腹腔鏡の利点】

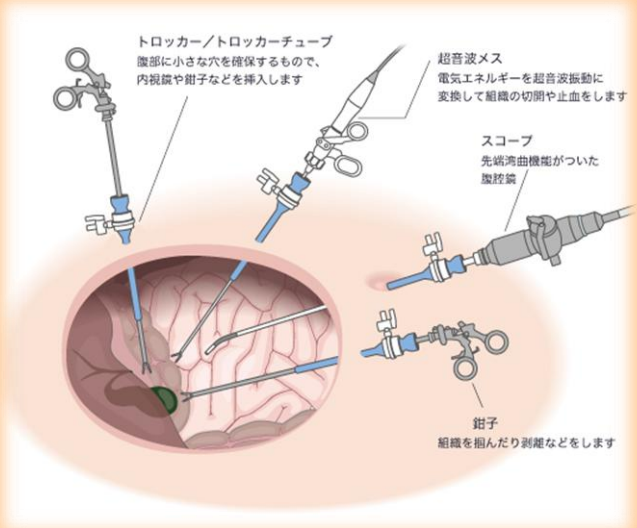
皮膚切開が小さく筋肉を切断することが少ないので、手術後の傷みが早く軽減していきます。術後の創部感染は開放（開腹）手術よりも少なく、傷も目立ちません。ほとんどの手術で翌日から歩行や食事が開始でき、入院期間の短縮が可能になります。

【腹腔鏡の欠点】

二酸化炭素の影響が出ることがあります。手術後の痛み、皮下気腫などが生じることがありますが、数日で自然軽快します。手術中に二酸化炭素濃度が上昇すると、手術後人工呼吸器を装着することがありますが、非常に稀です。開放（開腹）手術に比べて、丁寧な操作をするために手術時間が長くなることがあります。また、逆の場合もあり熟練した手術者が手術を施行すると開放（開腹）手術より時間が短くなる場合もあります。

【対応手術】

副腎摘出術・腎摘出術・腎部分切除術
腎尿管摘除術・前立腺摘除術・腎盂形成術など



【シングルポート内視鏡手術（SILS : single incision laparoscopic surgery）または、Reduced port surgery】

通常の腹腔鏡手術は、当たり前になりすぎて、現在ではポート数をいくつまで減らすことができるか、皮膚切開は何cmまで縮小できるかの挑戦が行われています。腎臓摘出術では必ず腎臓を摘出できるだけの皮膚切開（4～7cm）が必要です。そのため、最初に4～7cmの皮膚切開を作成して、この穴から手術を施行する方法が普及し始めています。さらに皮膚切開の場所も、臍に置く方法が試みられています。これらの方法は通常の腹腔鏡手術とは一線を画して非常に難易度が高い技術が必要です。当院でも、提供できる技術のひとつですので、ぜひご相談ください。

羽鳥　基明（はとり　もとあき）

平成2年　群馬大学医学部卒業
平成9年　秩父市民病院　泌尿器科部長
平成16年　群馬大学医学部付属病院　泌尿器科講師
平成17年　群馬大学医学部付属病院　泌尿器科臨床教授
平成25年　日高病院　泌尿器科部長　泌尿器腹腔鏡手術センター長
日本泌尿器科内視鏡学会　腹腔鏡手術技術認定
日本内視鏡外科学会　泌尿器腹腔鏡手術技術認定医

各診療科医師より一言

内科
副院長：高橋　正樹
部長：成清　一郎
本年9月に日本内科学会認定教育病院を取得致しました。呼吸器、消化器、内分泌・代謝など幅広い診療に対応しております。

外科
副院長：大澤　清孝
部長：東海林　久紀
消化器疾患を中心に幅広く、診断、治療を行っています。早期がんの内視鏡手術や腹腔鏡手術、進行癌に対する外科手術のほか、化学療法や緩和医療も含め、しっかりとしたがん診療が行えるよう体制を整えています。
2012年より温熱療法の機器を導入し、現在、群馬大学第一外科、放射線科の協力のもと、温熱化学放射線治療を開始しました。特に下部直腸癌における肛門温存手術の術前治療に効果を発揮しています。

心臓血管外科・ハートセンター長
大野　英昭
2008年12月に心臓血管手術を始めてからの5年弱の手術実績を別記に示しました。当院は、埼玉医科大学国際医療センター心臓血管外科（新浪博教授、HPはhttp://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/division_info/51.html）と連携し、qualityの高い外科治療を提供しています。単独の冠動脈バイパス手術には、全例で人工心肺を用いないOPCAB(off pump coronary artery bypass)を標準術式としてきました。人工心肺を用いないことで、脳梗塞の合併症もなく、多くの合併症を有する透析患者にも有利な手術方法です。一般的に視野確保が難しいと言われる左冠動脈回旋枝に対してもバイパス可能です。人工心肺を用いる標準的な大動脈弁置換術がハイリスクと判断された重症大動脈弁狭窄症に対し、より低侵襲である経カテーテル大動脈弁置換術という治療法が欧米を中心に普及してきました。但し、通常の手術が可能な場合は適応となりません。現在、国内でも治験が進められ、埼玉医科大学国際医療センターも実施可能なセンターのひとつで、当院も窓口となっています。毎週金曜日に新浪教授の外来を開設しており、心臓血管手術について意見を求めることができます。（完全予約制）2012年8月にはハイブリッドカテーテル室を増設し2室体制となり、循環器救急を24時間体制で受け入れることが可能となりました。下肢静脈瘤に対し、患者様のニーズの合わせた硬化療法やstab avlsion法など低侵襲な治療を提供し、近日血管内レーザー焼灼術導入も決まりました。足の病気でお困りの方をご紹介ください。

整形外科
部長：黒澤　一也
当整形外科は上肢を専門としており、急性期のプライマリー治療はもとより、変性疾患や陳旧例の救済治療まで幅広く対応可能です。またマイクロサージャリーを応用した遊離組織移植などによる四肢の組織、機能再建なども行っております。整形外科としてのより良い治療効果をあげるためにはリハビリテーションが不可欠ですが、当院はリハビリテーション部門も充実しており、急性期のみの断片的な治療ではなく、より良いADL、機能回復といった本来整形外科が目指すべき治療が可能な数少ない病院であると自負しております。
また、日々の診療だけではなく、臨床に役に立つ情報をできるだけ発信するため、学術的面にも力を入れるよう心がけており、平成18.年以降、学術論文を11.編発表し、学会・研究会・講演発表を30回行っております。
当科で治療可能な具体的疾患としては、股関節を除く上肢と膝関節の人工関節、四肢の外傷全般、末梢神経疾患、野球肘など上肢のスポーツ障害などですが、膝の靭帯再建術、脊椎の手術は行っておりません。
今後も当科の特色を生かして、地域医療に貢献できる整形外科を目指して頑張りたいと思います

循環器内科
部長：古賀　敬史
①循環器内科4名＋研修医の体制で24時間救急の受け入れが可能です。
②心臓血管外科の医師と協力し、最も良い治療が提供できるよう心がけております。
③循環器治療は、1次・2次予防治療が重要であると考え、メタボ・糖尿病治療センターおよび腎臓内科と協力して包括的診療を行ってまいります。
④循環器合併疾患に対しては、各部門（呼吸器内科、脳神経外科、外科、泌尿器科、リハビリテーション科etc）を横断する診療を敏速に行います。

腎臓内科
部長：箇井　貴朗
検尿異常、腎炎・ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、腎代替療法導入、透析合併症など、腎疾患に関して幅広く対応しております。当たり前の医療が当たり前に行われるよう、スタッフ一同、努力しています。

総合診療科
部長：石山　延吉
「日高病院の診療入口」として機能し、患者様を全人的にとらえた診察をモットーにしております。症状から特定の診療科を決めることが困難な場合や緊急を要する場合の際はぜひご紹介ください。 私たちは、
①救急疾患に対するプライマリケアを行います。
②必要に応じて、適切な専門診療科に引き継ぎ入院治療につなげていきます。
③複数の診療科にまたがる病態では、各診療科のコーディネーターの役割を果たします。

放射線科
腫瘍センター長：岡崎　篤
①放射線治療（トモセラピー：県内唯一）とPET/CTをご利用頂いております。がんの診断と治療をしっかりと行っていきたいと考えております。
②温熱療法と免疫細胞療法も実施可能ですが、補助療法としての適応をしっかりと考えて対応しております。
③がん相談を始めて4年目になりました。無料の「何でも相談」と有料のセカンド・オピニオンを含めて、〝諦めない・まだ何かできる〟の一心で患者さんやご家族の皆さんをお迎えしております。

腎臓外科
部長：安藤　哲郎
透析導入からシャントの管理、そして腎臓移植まで腎不全の外科治療は当科にお任せください。

リハビリテーション科
リハビリテーションセンター長
栗原　秀行
運動器系、脳血管系、神経系の各専門医がリハビリテーション医として専従勤務をしております。また、回復期リハビリテーション病棟は施設基準Ⅰを取得しており、日曜日や祝日においてもリハビリテーションを提供しております。

歯科口腔外科
主任医長：渡部　隆夫
口腔外科的治療、並びに特に有病者の一般歯科治療をお受け致しております。入院加療も可能ですので、お気軽にご相談ください。

眼科
主任医長：宇都木　憲子
多様な手術をさせていただいております。

泌尿器科
部長・泌尿器腹腔鏡手術センター長　：羽鳥　基明
レーザー治療を導入して前立腺肥大症手術、尿路結石治療をしております。また、腹腔鏡手術を行っております。

脳神経外科
主任医長：木幡　一磨
急性期治療が充実してきております。また他診療科や回復期リハビリテーション病棟との連携が緊密であるため、トータルな診療が可能となっております。

ご予約、お問い合わせは　日高病院　病診連携室　TEL：027-362-6201　FAX:027-362-0217

医療法人社団日高会日高病院
◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信
手術・診療実績報告

No72
平成25年8月26日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

平成24年8月～平成25年7月（直近1年間）の手術・診療実績をご報告致します

当院は、「患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する」を基本理念として、群馬県がん診療連携推進病院地域医療支援病院、災害拠点病院、臨床研修指定病院の指定を受けると共に、24時間・365日の救急受入れ体制で高崎・安中医療圏の地域住民が安心して生活できる病院づくりを目指しております。

がん診療では、手術や化学療法にとどまらず、免疫療法や温熱療法にも取り組んでおります。さらに、ガンマナイフ治療、強度変調放射線治療など最新鋭の放射線治療機器を有効活用し、高度な専門医療を提供しております。一方、「がん何でも相談」や「緩和ｹｱﾁｰﾑ」など相談支援体制も充実させ、全人的がん治療に取り組んでおります。本年から泌尿器腹腔鏡手術センターを開設し、泌尿器癌（前立腺癌、腎癌、腎盂尿管癌等）の腹腔鏡手術が可能となりました。さらに、病理専門医を迎え、質の高いがん診療を提供できる体制が整いました。救急体制に関しては、循環器内科医4人体制となり、万全の体制で救急患者受入れが可能となりました。また、脳神経外科によるt-PAも実施されております。その他臨床面では、生体腎臓移植の実施、ハートセンター（循環器内科・心臓血管外科）で冠動脈ﾊﾞｲﾊﾟｽ術（OPCAB）を施行しております。

地域の先生方に当院の診療内容や手術実績を知って頂くことで、診療の一助となれば幸いでございます。

病院長　関原　哲夫

【新入院患者数】

診療科	合計	月平均
内科	810	67.5
腎臓内科	435	36.3
循環器内科	540	45.0
腎臓外科	979	81.6
外科	753	62.8
整形外科	616	51.3
泌尿器科	1321	110.1
脳神経外科	260	21.7
心臓血管外科	72	6.0
眼科	418	34.8
総合診療科	118	9.8
緩和ケア科	15	1.3
口腔外科	35	2.9
合　計	**6,372**	**531**

【救急搬送患者数】

診療科	合計	月平均
内科	330	27.5
腎臓内科	119	9.9
循環器内科	159	13.3
腎臓外科	116	9.7
外科	151	12.6
整形外科	395	32.9
泌尿器科	130	10.8
脳神経外科	135	11.3
心臓血管外科	35	2.9
総合診療科	601	50.1
緩和ケア科	60	5.0
リハビリ科	6	0.5
合計	**2,237**	**186**

【診療科別　総手術件数】

診療科	合計	月平均
内科	248	20.7
循環器内科	273	22.8
腎臓外科	1065	88.8
外科	547	45.6
整形外科	563	46.9
泌尿器科	826	68.8
脳神経外科	32	2.7
心臓血管外科	88	7.3
眼科	497	41.4
口腔外科	55	4.6
総合診療科	1	0.1
形成外科	50	4.2
合計	**4,245**	**353.8**

【一般病棟、回復期リハビリテーション病棟の新入院患者数】

月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計
一般	533	466	555	519	509	522	490	542	509	536	514	677	**6,372**
回復期	26	25	30	28	32	23	32	25	25	29	29	32	**336**

【平均在院日数】

内科	腎内科	循内科	腎外科	外科	整形科	泌尿器科	脳外科	心外科	眼科	総診科	緩和ｹｱ科	口腔外科	合計
19.1	23.5	7.2	3.9	10.8	19.6	6.5	10.4	24.1	5	8.2	23.6	8.7	**10.9**

【 平成24年8月～平成25年7月　手術・診療実績 】

内科　疾患別入院実績

内科部長：成清　一郎

呼吸器系	肺炎、急性気管支炎	130
	誤嚥性肺炎	92
	肺癌	35
	間質性肺炎	21
	慢性閉塞性肺疾患	7
	呼吸器その他	50
内分泌系	2型糖尿病	59
	1型糖尿病	7
	肥満症	7
	内分泌その他	32
消化器系	ウイルス性腸炎	24
	胆管結石、胆管炎	13
	胆のう炎	12
	急性肝炎	12
	肝硬変症	8
	胃、十二指腸潰瘍	7
	結腸憩室	7
	胃炎、十二指腸炎	6
	アルコール性肝炎	6
	消化器その他	64
中毒	急性アルコール中毒	10
	急性薬物中毒	6
その他	尿路感染症	29
	敗血症	19
	心不全	15
	めまい症	15
	脳梗塞	14
	蜂巣炎	9
	播種性血管内凝固	8
	熱中症・熱射病	7
	その他	76

総合診療科　疾患別入院実績

総合診療科部長：石山　延吉

急性薬物中毒	23
誤嚥性肺炎	7
めまい症	7
脳梗塞	4
尿路感染症	4
中枢性めまい症	4
急性アルコール中毒	4
肺炎、急性気管支炎	3
熱中症・熱射病	3
てんかん	3
イレウス	3
ウイルス性腸炎	3
肋骨骨折	2
敗血症	2
頭部挫創	2
胆のう炎	2
脱水症	1
静脈血栓、静脈炎	1
胃炎、十二指腸炎	1
低血圧症	1
低血糖症	1
低体温症	1
糖尿病性末梢神経障害	1
水中毒	1
胸椎・腰椎圧迫骨折	1
熱傷	1
外傷性血気胸	1
ニューロパチー	1
脳梗塞後遺症	1
廃用症候群	1
身体表現性障害	1
逆流性食道炎	1
変形性脊椎症	1
薬疹	1
頚椎捻挫	1

Hybrid血管撮影装置
東芝INFX-8000V

循環器内科　手術実績

循環器内科部長：古賀　敬史

経皮的冠動脈ステント留置術	156
経皮的冠動脈形成術	21
経皮的カテーテル心筋焼灼術	4
ペースメーカー移植術	18
ペースメーカー交換術	1
体外ペースメーキング術	9
四肢の血管拡張術・血栓除去術	38
その他の上下肢動静脈手術	8
その他の循環器内科手術	17
合　　計	273

心臓血管外科　手術実績

ハートセンター長：大野　英昭　　2008年12月～2013年7月

冠動脈バイパス術（単独、off pump）	28
冠動脈バイパス術（弁の合併手術、on pump）	8
弁形成術（メイズ手術）	10
弁置換術	28
先天性心疾患手術	7
胸部大動脈手術	8
腹部大動脈手術	21
下肢動脈バイパス術	32
下肢静脈瘤手術	87

腎臓外科　手術実績

腎臓外科部長：安藤　哲郎

内シャント設置術	229
シャントPTA	679
血管結紮術	39
上皮小体全摘術	1
血管移植術、バイパス移植術	57
生体腎移植術	10
腹腔鏡下移植用腎採取術（生体）	10
動脈血栓除去術	1
その他手術	39
合　　計	1,065

歯科口腔外科　手術実績

歯科口腔外科主任医長：渡部　隆夫

上顎洞根治手術	3
抜歯手術	3
口蓋腫瘍摘出術	1
口腔外消炎手術	2
下顎骨形成術	2
上顎骨形成術	1
頬骨骨折観血的整復術	1
下顎骨折観血的手術	1
顎関節脱臼非観血的整復	1
上顎骨折観血的手術	2
術後性上顎嚢胞摘出術	1
顎骨腫瘍摘出術	9
インプラント埋入術	17
がま腫切開術	1
舌下腺腫瘍摘出術	1
顎下腺摘出術	1
口腔外科その他手術	8
合　　計	55

日高病院全景

泌尿器科　手術実績

泌尿器科部長・泌尿器腹腔鏡手術センター長：羽鳥　基明

前立腺がん手術	9
前立腺肥大症手術	34
膀胱がん手術	126
腎臓がん手術	14
尿路、結石手術	322
腹腔鏡手術（再掲）	12

腎臓内科　診療実績

腎臓内科部長：筒井　貴朗

入院患者数	435
透析延回数	2,922
特殊透析延回数(再掲)	25
新規透析導入患者数	98
腎生検件数	15
教育入院患者数	12

眼科　手術実績

眼科主任医長：宇都木　憲子

白内障　超音波摘出術	273
硝子体手術	79
網膜復位術	53
斜視手術	32
緑内障手術	11
翼状片手術	4
眼瞼手術	38
眼瞼結膜悪性腫瘍手術	1
眼科その他手術	6
合　　計	497

脳神経外科　手術実績

脳神経外科主任医長：木幡　一磨

血管内	脳血管内手術	4
	経皮的脳血管形成術	1
	動脈血栓内膜摘出術	1
	経皮的頸動脈ステント留置術	1
開頭	頭蓋内血腫除去術	6
	頭蓋骨形成手術	1
その他	水頭症手術	4
	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	8
	穿頭脳室ドレナージ術	6
	その他手術	5
t-PA		9
合　　計		46

腫瘍センター実績

PET-CT　東芝PCA-7000B

腫瘍センター　放射線治療実績（実人数）

腫瘍センター長：岡崎　篤

診療科	入外合計	入院(再掲)	外来(再掲)
内科	24	22	2
外科	88	40	48
腎臓内科	1	1	0
整形外科	2	2	0
泌尿器科	159	40	119
口腔外科	1	1	0
緩和ケア科	1	1	0
放射線科	283	0	283
合　計	559	107	452

化学療法実績

化学療法センター長：茂木　政彦

診療科	入外合計
内科	52
循環器内科	1
腎臓内科	5
腎臓外科	4
外科	372
整形外科	13
泌尿器科	283
緩和ケア科	1
合計	731

ﾄﾓｾﾗﾋﾟｰ　Hi-Art　system

温熱療法実績（実人数）

入院	25
外来	62
合計	87

ｶﾞﾝﾏﾅｲﾌｾﾝﾀｰ

主任医長：柴崎　徹

入院	99
外来	19
	118

整形外科　手術実績

整形外科部長：黒澤　一也

頭頸部、体幹	骨折観血的手術	5
	骨内異物（挿入物）除去術	4
	その他の頭頚部・体幹手術	1
手、指	骨折観血的手術	13
	関節内骨折観血的手術	8
	観血的関節固定術	7
	観血的関節授動術	1
	骨内異物（挿入物）除去術	13
	関節内異物（挿入物）除去術	1
	骨折経皮的鋼線刺入固定術	22
	関節鏡下関節内骨折観血的手術	1
	関節脱臼観血的整復術	2
	骨折非観血的整復術	1
	ガングリオン摘出術	4
	デュプイトレン拘縮手術	2
	偽関節手術	2
	骨移植術	3
	骨部分切除術	4
	骨掻爬術	1
	再接合術	10
	手根管開放術	24
	神経縫合術	10
	神経移植術	1
	神経腫切除術	1
	断端形成術	19
	靭帯縫合術	2
	靭帯断裂縫合術	2
	動脈吻合術	3
	腱移植術	7
	腱移行術	3
	腱鞘切開術	20
	腱縫合術	7
	皮弁作成術・移動術・切断術・遷延皮弁術	3
	筋肉内異物摘出術	1
	分層植皮術	1
	皮膚，皮下腫瘍摘出術	4
	動脈（皮）弁術	1
	陥入爪手術	1
	多発性骨腫摘出術	1
	四肢の血管吻合術	1
	創傷処理	53
上　肢	骨折観血的手術	48
	関節内骨折観血的手術	15
	骨内異物（挿入物）除去術	33
	骨折経皮的鋼線刺入固定術	3
	人工骨頭挿入術	1
	再接合術	1
	腱鞘切開術	4
	腱縫合術	1
	関節脱臼非観血的整復術	1
	骨折非観血的整復術	5
	関節鼠摘出手術	1
	関節滑膜切除術	1
	観血的関節授動術	2
	神経剥離術	8
	靭帯断裂縫合術	1
	筋膜切開術	1
	皮膚，皮下腫瘍摘出術	3
	瘢痕拘縮形成手術	1
	骨移植術	4
	偽関節手術	1
	人工関節置換術	1
	創傷処理	4
	その他の上肢手術	1
下　肢	骨折観血的手術	83
	関節内骨折観血的手術	10
	骨内異物（挿入物）除去術	17
	関節内異物除去術	3
	人工骨頭挿入術	27
	人工関節置換術	2
	アキレス腱断裂手術	13
	四肢切断術	8
	腱縫合術	2

整形外科　手術実績（左記表の続き）

下肢	神経縫合術	1
	断端形成術	1
	動脈吻合術	1
	骨折経皮的鋼線刺入固定術	1
	骨折非観血的整復術	1
	全層植皮術	1
	動脈（皮）弁術	2
	創傷処理	7
足部	骨内異物（挿入物）除去術	2
	四肢切断術	8
	断端形成術	10
	神経縫合術	1
	関節内骨折観血的手術	1
	骨折経皮的鋼線刺入固定術	1
	皮膚，皮下腫瘍摘出術	1
	創傷処理	3
合　計		618

外科　手術実績

外科部長：東海林　久紀

食道	内視鏡的食道狭窄拡張術	7
	食道・胃静脈瘤結紮術	1
	その他の食道手術	6
胃 十二指腸	胃全摘術	4
	胃切除術	11
	腹腔鏡下胃切除術	1
	内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	27
	開腹胆嚢摘出術	7
	内視鏡的胃，十二指腸ポリープ・粘膜切除術	14
	内視鏡的消化管止血術	28
	胃縫合術（大網充填術又は被覆術を含む）	1
	胃瘻造設術	27
	その他の胃・十二指腸手術	8
小腸	小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）	7
	その他の小腸手術	2
大腸	結腸切除術（全切除及び亜全切除又は悪性腫瘍手術）	14
	結腸切除術（結腸半側切除、小範囲切除）	5
	直腸切除・切断術（低位前方切除術）	8
	直腸切除・切断術（切断術）	8
	腹腔鏡下結腸切除術	6
	開腹胆嚢摘出術	1
	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	194
	直腸腫瘍摘出術（ポリープ摘出を含む。）（経肛門）	2
	結腸狭窄部拡張術（内視鏡によるもの）	1
	虫垂切除術	8
	人工肛門造設術、閉鎖術	14
	痔核、痔瘻手術	4
	内視鏡的消化管止血術	4
	その他の大腸手術	4
肝胆膵	開腹胆嚢摘出術	6
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	20
	その他の肝胆膵	1
乳腺 甲状腺	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）	8
	乳腺腫瘍摘出術	4
	甲状腺悪性腫瘍手術	2
	甲状腺腫摘出術	2
	副甲状腺摘出術	1
	その他の乳腺・甲状腺手術	2
その他	鼠径ヘルニア手術	54
	腹壁瘢痕ヘルニア手術	2
	皮膚・皮下腫瘍摘出術	15
	急性汎発性腹膜炎手術	3
	その他	3
合計		547

医療法人社団日高会日高病院

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

Ｎｏ73
平成25年9月25日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

本年9月に日本内科学会より教育病院の認定を受けました。

地域の先生方、登録医の先生方におかれましては平素より当院との緊密な医療連携にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

当院は、以前より日本内科学会認定医制度により教育関連病院の認定を受けておりましたが、このたび、本年9月に更に上の基準である教育病院に認定されました。認定の基準は以下の全項目を2年にわたり満たすことが必要であり、今後の認定維持においても毎年同条件を満たすことが必須となります。

①単独型もしくは管理型臨床研修病院の資格を満たす病院、および管理型臨床研修病院に準ずる病院。
②内科病床数が50床以上あること。
③内科剖検数が10体以上あること。
④CPCが5症例以上定期的に開催されていること。
⑤内科指導医が5名以上で、全員が総合内科専門医であることが望ましい。
⑥内科学会年次講演会、または地方会での発表が年3演題以上であること。

当院では一般内科（総合診療科含む）として、内分泌糖尿病、消化器、呼吸器、緩和ケア部門の専門医師が在籍し、また腎臓内科や循環器内科、神経内科を専門とする医師も独立した科として診療を行っており、内科系医師は総勢22名となっております。この様に、充実した診療体制のもとに教育施設として8名の研修医を育成しております。

多くの患者様をご紹介頂きましたおかげで、下記の様な実績を積み上げることができ、教育病院の認定に至ることが出来たと考えております。今後も地域の先生方や、登録医の先生方から信頼を得て多くの患者様をご紹介頂ける様に質の高い医療を提供できる体制を構築してまいります。引き続き当院との連携をお願いするとともに、より一層のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

内科部長　成清　一郎

内科系新規入院患者数

H22	1243名
H23	1532名
H24	1629名

内科系病理解剖数・CPC

	病理解剖	CPC
H22	10件	9回
H23	10件	5回
H24	11件	8回

内科系論文・学会発表数

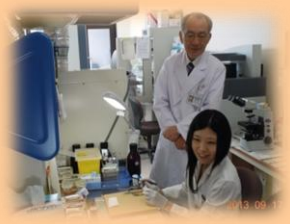
	論　文	学会発表
H22	2	11
H23	4（うち海外2）	6
H24	2	27

中里洋一先生が、病理部病理診断科　部長に就任いたしました。

平成25年4月より、群馬大学名誉教授　中里洋一先生が病理部　病理診断科部長として入職を致しました。病理専門医が常勤となったことで、臨床医がタイムリーにディスカッションをすることができ、病理組織診断にもとづいて患者様の病状を正確に把握したうえで病理組織診断が可能となりました。また、非常勤で山根優子先生（病理専門医）も勤務しています。一部の病理診断については2名の病理専門医が施行しているため、精度が高く信頼性に優れております。ESD等は、検査医が同席して病理医が切り出しを施行しており、組織片は院内で速やかに標本作製したのち、2～6日間で臨床医に報告されています。術中迅速病理組織診断も常時可能であるため、がん診療連携推進病院として地域の患者様に質の高い医療を提供することができます。

①病理組織診断日数が短縮されました。（2日～6日間）
②常時、迅速病理診断が可能な体制になりました。
③病理部病理診断科は2名体制となっております。

病理部　病理診断科
部長　中里　洋一先生



標本切り出しの様子
山根　優子先生

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

医療法人社団日高会日高病院

病診連携通信

Ｎｏ74
平成26年1月10日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

当化学療法センターがリニューアルオープン！　～夜間化学療法も同時にスタート～

平成26年1月6日より化学療法センターが、リニューアルオープン致しました。患者様に安全で優しい化学療法が提供できるよう、13床の全室が個室となっております。（リクライニングチェア：9床　ベッド：4床）また、診察室や採血コーナー、ミキシングルームも完備され、患者様の移動と待ち時間が最小限になるよう設計が施されております。また、アメニティー向上と同時にプライバシーにおいても最大限配慮されており、治療の苦痛から少しでも安らぎを感じて頂けることが私共の願いです。

13室の全てが個室です

当院は平成24年4月に群馬県より、がん診療連携推進病院の指定を受けております。高崎・安中医療圏における、がん医療の均てん化を推進するため、手術、放射線治療の取り組み、クリティカルパスの整備や、キャンサーボード設置と定期的な開催および、セカンドオピニオン、相談支援センターなどを設置致しました。 しかし、今後は多機能であると同時に、その質が問われてまいります。当センターは、『患者様の満足を第一に考え質の高い医療を提供する』 という、当院の理念に忠実に基づいた運営をしてまいります。さらに、1月17日より夜間における化学療法の実施、土曜日に化学療法を提供し、就労されている患者様の支援も積極的に取り組んでまいります。当センターを通して地域医療に貢献できるよう努力してまいる所存でございますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

化学療法センター長
茂木　政彦

① 採血コーナー

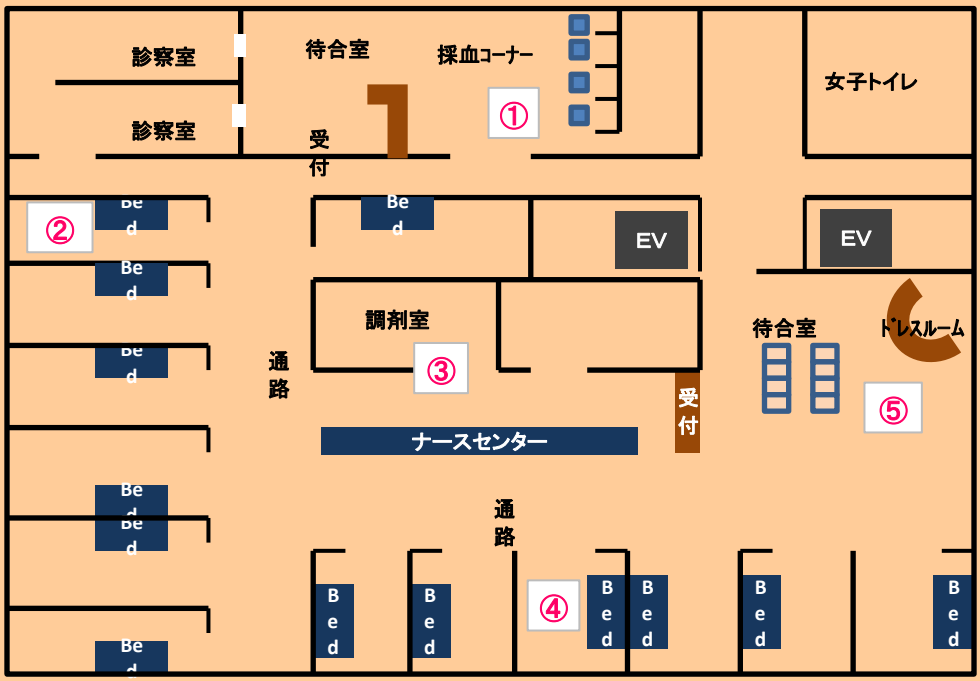
② 治療室

③ ミキシングルーム

④ 治療室

ひと部屋づつ、壁紙が異なります。
個室平均面積：9㎡

化学療法センター配置図



⑤ ドレスルーム

身支度を整えたり、カツラなどの装着が気軽に行えるスペースをご用意致しました。

医療法人社団日高会日高病院

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

Ｎｏ75
平成26年2月10日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

本年1月より救急部　部長 木村　圭一 先生が入職致しました

木村　圭一
浜松医科大学卒
（平成4年）

日本外科学会指導医
日本救急医学会　救急科専門医
日本超音波医学会　超音波指導医
ICLSディレクター
ACLSインストラクター
PALSインストラクター

本年1月から救急部長として赴任致しました木村と申します。救急科は緊急（unforeseen）の病態を扱う診療科であり、集中治療と同様ではありません。緊急性はあるが、重症度が低い場合（例えば緊急性気胸は適切に対処すれば重症ではありません）や重症度は高いが緊急性がない（肺炎で入院中の患者さんが徐々に悪化し重症になった）場合もあります。

しかし、重症患者さん以外には興味がないということでは、救急医失格です。もちろん、緊急かつ重症なので、救急外来を経て集中治療室へ入るということはあります。重症な救急患者さんを扱うのは救命型救急と呼ばれています。当院は重症も軽症も診療させていただくER型救急を目指します。入院ができない場合には、適切な医療機関をご紹介をさせて頂くというスタンスで救急患者さんを断らないことを、病院全体で取り組んでまいります。

また、当院は基幹型臨床研修病院に指定されております。救急医療は、臨床研修医の先生方に学んでいただける場として最適です。患者さんに不利益が出ないよう留意し研修医の先生にも活躍して頂けるよう環境づくりを致します。

今後は、高崎・安中医療圏における救急医療を担えるよう、救急スタッフと共に院内体制を構築してまいります。先生方のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

救急搬送受入数　（過去4年間）

年(西暦)	年間受入数	月平均数
2010年	1,973件	164.4件
2011年	2,107件	175.5件
2012年	2,075件	172.9件
2013年	2,511件	209.2件

平成25年度　CPCの開催状況と今後の予定　～先生方のご参加をお待ちしております～

年月日	臨床診断	症例数	臨床医
平成25年4月23日	拡張型心筋症　・　食道静脈破裂	2例	成清・肥田
平成25年5月27日	肝細胞癌	1例	肥田
平成25年6月25日	原発不明多発転移癌　・　出血性ショック	2例	石山・渡邉
平成25年7月30日	肺炎　・　ﾆｭｰﾓｼｽﾁｽｶﾘﾆ肺炎	1例	上原・肥田
平成25年9月30日	多系統萎縮による心不全　・　肺癌	2例	今井・成清
平成25年10月29日	慢性じん不全・脊椎カリエス	1例	筒井
平成25年12月5日	肺癌　・　心筋炎疑い	2例	吉川・村場・今井
平成26年2月27日	神経変性疾患による不整脈死（ﾏｸﾛ診断は全身臓器うっ血）	1例	今井

平成25年度は8回のCPCを開催するに至りました。病理解剖においても12例に達しており、臨床研修医などの有意義な学習の場となっております。この貴重な機会を充実させ地域の先生方においてもオープンな形でご提供できればと考えております。この病診連携通信とともに、毎回開催通知を郵送させて頂きます。参加用紙に所属とお名前を記載し、FAXをして頂くという簡便な手続きとなっておりますので、お気軽にご参加頂ければ幸いに存じます。

病理部病理診断科部長　中里　洋一

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念:患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ76
平成26年4月5日
日高病院病診連携室発行

糖尿病サポートチーム特集

当院では、看護師・管理栄養士・臨床検査技師が糖尿病療養指導士として資格を有し、高橋正樹診療部長をリーダーとして糖尿病サポートチームを結成致しました。 チームメンバーとして、薬剤師や理学療法士も加わり充実した『糖尿病教育入院』『糖尿病教室』を提供できる体制となりました。 診療所の先生方や地域の患者様にご満足頂ける糖尿病トータルマネージメントを目指していきたいと考えております。

短期教育入院（2泊3日）をもうけました

基本プラン	2泊3日	1週間	2週間
自己負担金額	¥50,000	¥120,000	¥250,000

＊上記の費用は、目安ですので患者様の症状などによって異なりますことをご了承ください。
＊2泊3日を除き高額療養費の対象となりますので、ご相談くださいませ。

指導報告書を作成してお届けいたします

当院独自の『糖尿病療養指導シート』に医師・看護師・管理栄養士・薬剤師理学療法士・臨床検査技師などが、各々の見地から指導させて頂いた内容を記載し報告書として先生方にお届けいたします。

糖尿病教室を開催いたします　information

ご多忙な患者様から、短期による教育入院もできないとのお声が寄せられておりました。そのような患者様を対象に『糖尿病教室』の開催を予定しております。

さらに先生方の患者様を対象とした**『出張糖尿病教室』**も可能です。 患者様を数人集めて頂ければ、当院の糖尿病サポートチームがお伺いいたします。

糖尿病教室の例

時　間	内　　容	担　当
11:00～11:30	血糖値はどうして重要なの？	検査技師
11:30～12:00	食べたい！そして健康にもなりたい人のために	管理栄養士
12:00～13:00	昼食　　～　ご自身の適正な食事量を実際に計って頂きます　～	
13:00～13:30	サプリメントの意外な落とし穴	薬剤師
13:30～14:00	どんな運動の仕方が良いの？	理学療法士
14:10～14:40	初心者でもできるアロマを使ったストレス解消法 ～　アロマセラピー資格者が教えます　～	看護師
14:40～15:10	糖尿病専門医からのメッセージ	医師

『出張糖尿病教室』の場合は、上記のメニューに限らず先生方のご意向に添ったプランを相談させて頂きます。

お問い合わせ先　日高病院　糖尿病ｻﾎﾟｰﾄﾁｰﾑ　担当　八束（やつづか）:027-362-6201

高崎市中尾町886番地
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

病院理念：患者の満足を第一に考え質の高い医療を提供する。

病診連携通信

Ｎｏ77
平成26年5月10日
日高病院病診連携室発行

施設アンケートを実施致しました

平成25年1月に高崎安中二次医療圏の施設様に連携アンケートを送付させて頂きました。
今後は施設連携も地域連携の一環として積極的に取り組んでまいります。アンケート結果の詳細は、ご協力をお願い致しました施設様に送付させて頂きます。

【当院に期待すること】について

第1位　救急患者の受入れ
第2位　電話での医療相談
第3位　施設職員向けの研修会、講習会
第4位　施設職員の心の健康、カウンセリング

【当院への不満】について

第1位　入院を断られた
第2位　救急患者を断られた
第3位　利用者の経過報告がなかった
第4位　退院時の指導が不十分

外来診察室の椅子が新しくなりました。

当院は災害拠点病院の指定を受けています。東日本大震災の際には1階に患者さんが溢れたことを、今でも思い出します。そのような有事に備えて、外来待合の椅子を災害時に緊急ベッドになるタイプに入れ替えました。ワンタッチで簡単にベッドに早変わりする優れものです。

腫瘍センター活用術（PET/CTの利用方法について）

腫瘍センターの予約方法についてご案内致します。まず、当院にお電話をいただき、氏名と生年月日を伺います。PET/CT撮影日時やトモセラピーの診察時間を決定し、速やかに予約票をFAXさせていただきます。

① 日高病院にお電話をしていただきます。*（TEL：027-362-6201）*
② その場で、検査や診察の日時を決定しお伝えいたします。
③ 患者様のお名前や生年月日を教えていただきます。
④ 紹介元医療機関の先生方の了承を得ることができれば、ご自宅などの電話番号をお聞かせいただく場合がございます。

① 検査日時やご予約時間・当日の注意事項などが記載されている予約票を速やかにFAXさせていただきます。
② 診療情報提供書と予約票を患者様にお渡しください。

以上で、予約終了です。

腫瘍センターはこの様なサービスも提供しています

● **訪問説明サービス**
初めての診察や検査を受けるにあたって、患者様が不安になってしまうケースもあるようです。
この様な、患者様に検査手順など説明をさせて頂いたり、パンフレットなどをお持ちして施設説明などをさせて頂くサービスです。

● **送迎サービス**
入院中の患者様がPET/CT検査などを受ける際、ご家族等がどうしても送迎できない場合もご相談ください。

医療法人社団日高会日高病院

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

No78
平成26年8月10日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

平成26年6月　ガンマナイフセンターがリニューアルオープン
レクセルガンマナイフパーフェクション　Leksell Gamma Knife® Perfexion™ を導入

平成26年6月16日（月）にガンマナイフセンターがリニューアルオープン致しました。 当院は1991年に日本で3番目にガンマナイフを導入し、これまでに約4,000症例におよぶ治療実績があります。がんの発症率の増大や高齢社会を背景に、ガンマナイフによる治療は非常に重要な役割を果たしております。

今回、導入されたレクセルガンマナイフパーフェクションは次の点で非常に優れております。

① 治療計画の最適化・精度の向上（複数のコリメーターを組み合わせが可能）
② 治療領域の拡大（頭蓋底、頭蓋外側部、眼窩内を含む頭蓋内殆どの部位で治療可能）
③ システムの完全自動化（オートマチックで座標位置合わせ可能。精密な治療計画・短時間治療が可能）
④ 放射線防護の向上

治療時間の短縮、治療領域の拡大のため、**多発性脳腫瘍の治療**にも大変優れております。

Leksell Gamma Knife® Perfexion™

【ガンマナイフ治療とは・・・・】
稀な例を除き、ガンマナイフ治療は1回で終了し、全身麻酔を行いません。治療期間においても、1日～3日と短期間で、退院日からすぐに日常生活に戻れるという大きなメリットがあります。また、開頭手術と比較しても医療費が安く、コストパフォーマンスも優れております。治療は、コバルト60線源からの192本の照射ビームでターゲットに高精度で照射します。各ビームの強度が低いため、正常組織に与える副作用は最小限にとどめることができます。

適応疾患

脳動静脈奇形　・　脳腫瘍【転移性脳腫瘍・聴神経腫瘍・髄膜腫・下垂体腺腫・再発悪性リンパ腫など】
機能的疾患 【三叉神経痛】（但し、この疾患は現時点で保険適応外となります）

治療の特徴

転移性脳腫瘍：ガンマナイフ治療で腫瘍を制御することができる確率は一般に80%以上です。多発病変（10個までは実証あり）、全脳照射後・開頭手術後・定位照射後に新たに出現した病巣でも治療可能です。3cm以上の腫瘍は開頭腫瘍摘出術の適応ですが、手術が困難な例ではガンマナイフで分割照射を行うこともあります。

脳動静奇形（AVM）：ガンマナイフ治療の目的は異常な血管を閉塞させ、出血を予防することです。大きさは2.5～3.0cmまでで、閉塞までに照射後2～3年かかります。その間、出血する可能性はガンマナイフ治療をしない場合より低くなると推定されています。

良性脳腫瘍（聴神経腫瘍、髄膜腫、下垂体腺腫など）：様々な理由で、手術が不可能な場合にガンマナイフの適応となります。腫瘍の成長を停止させ、症状発現や悪化を防止することが目的です。

ガンマナイフの副作用のうち、最も頻度が多いのが脳のむくみ（脳浮腫）です。程度に応じて保存的治療や外科的治療が選択されます。

写真はガンマナイフセンター長の柴崎医師と 旧型ガンマナイフ（処分せず大切に展示保存しております）

医療法人社団日高会日高病院

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

Ｎｏ79
平成26年10月15日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

平成26年9月　救急功労者厚生労働大臣賞を受賞しました

平成26年9月9日（救急の日）、群馬県の救急医療の確保への貢献が評価され日高病院が「救急医療功労者　厚生労働大臣表彰」を受賞しました。今年度は全国で15の団体と、個人22名が選出され、そのうちの一つの団体として当院が表彰されたものです。

この表彰は、厚生労働大臣が、都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策の推進に貢献した医療機関等の団体や個人の功績をたたえるものです。

病院長は、日高会全職員への表彰だとおっしゃっていました。この表彰を汚すことなく、切磋琢磨してまいります。今後も当院の病院理念である「患者の満足を第一に考え、質の高い医療を提供する」を達成する為、邁進してまいります。

地域であたたかく見守ってくださった地域の皆様、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

【関原院長は向かって1列右から4番目です】

『リレー・フォー・ライフ2014ぐんま』に参加しました

リレー・フォー・ライフ（Relay For Life）とは、がん患者や家族、その支援者らが公園やグラウンドを会場に交代で24時間にわたって歩き、がん制圧への願いを新たに、絆を深め

10月11日・12日に開催され、群馬県がん診療連携推進病院である当院も参加しました。このイベントのテーマは「つながろう がんに負けない いのちのリレー」です。当院からも医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、事務が参加しました。

リレー・フォー・ライフに参加して、患者も医療者も支えあいながら生きている、人と人との繋がりによって「がん」と闘う勇気を与えてくれるのだと改めて実感しました。

共に闘い、共に支えあい、がんに負けない社会を作るため日高病院も貢献します。

写真はリレー・フォー・ライフ2014ぐんまの会場となった群馬県総合スポーツセンターふれあいグラウンドの写真です。

医療法人社団日高会日高病院

◎群馬県がん診療連携推進病院
◎地域医療支援病院
◎災害拠点病院

病診連携通信

No80
平成26年12月10日
日高病院病診連携室発行
TEL 027-362-6201
FAX 027-362-0217

平成26年度DMAT関東ブロック訓練が実施され、日高病院も参加しました

平成26年11月29日（土）に群馬県南部地域における大規模災害を想定し、関東1都6県のDMAT（災害派遣医療チーム）が参加するDMAT関東ブロック訓練が実施されました。

訓練では、群馬県消防学校や災害拠点病院を会場とするほか、ドクターヘリ等により災害拠点病院から相馬原駐屯地内へ搬送された患者を、自衛隊大型航空機により千葉県の下総基地に搬送されました。

訓練の設定では、7:30に地震が発生し日高病院の一部が倒壊！北病棟の2階に負傷者が20名発生した設定でした。今回の訓練を通じて、関東各地のDMATチームと交流し、自らの未熟さを感じ、その上で向上心を燃やす良い機会となりました。これからも群馬県の災害拠点病院として精進してまいります。

当院駐車場に救急車両が集合

当日は生憎の雨でした

他県DMATとの連携シーンです

負傷者を搬送しています

治療エリアは緊迫した雰囲気でした

世界糖尿病デーに日高病院がブルーになりました

1921年、カナダのトロント大学で、フレデリック バンティングとチャールズ ベストはインスリンの抽出に成功しました。11月14日は、バンティングの誕生日にあたります。2006年12月20日、国連は「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」を可決すると同時に、11月14日を「世界糖尿病デー」として指定しました。

日高病院でも医師、看護師、薬剤師、管理栄養師、臨床検査技師、理学療法士のメンバーで糖尿病サポートチームが活動しています。

生活習慣病である糖尿病の啓発活動の為、政界糖尿病デーに合わせてブルーライトアップイベントを開催しました。

当院では「メタボ・糖尿病治療センター」が中心となり、教育入院や糖尿病講演会、ヘルスアップランチ会などを実施し、糖尿病の啓発活動、予防に努めています。

糖尿病サポートチーム

ブルーサークル